

日の出町教育ビジョン 2023

共に学び、支え合い、みんなで創る日の出町の教育

日の出町教育委員会

目次

I 日の出町教育ビジョン 2023 策定について	1
1 策定趣旨	1
2 教育を取り巻く環境の変化	2
3 策定にあたっての基本的な考え方	3
4 日の出町教育ビジョン 2023 の位置づけ	4
II これからを見据えた日の出町の教育 ～日の出町の教育の目指すところ～	5
III 大切にしていきたい考え方 ～日の出町の教育振興のための基本方針～	6
IV 新たな日の出町の教育づくりの進め方 ～取組の方向性～	7
V 教育行政の今後の展開	8
用語解説	9

I 日の出町教育ビジョン 2023 策定について

1 策定趣旨

日の出町は、昭和 30 年に大久野村と平井村が合併、日の出村が誕生し昭和 49 年に町制施行以後、着実な町づくりを進めてまいりました。教育行政につきましても昭和 22 年に学校教育法が制定されて以来、社会環境の変化とともに変革を遂げて現在に至っています。

教育委員会では、日の出町教育委員会の教育目標及び基本方針、主要施策に基づき、人権尊重の精神を養い、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた心豊かで、郷土を愛する日の出町民の育成を目指してきました。その実現に向けて、家庭教育・学校教育・社会教育の緊密な連携のもと、誰もが生涯を通じて主体的に学ぶことのできる学習社会の実現を図りながら、普遍的かつ個性的な文化の創造と豊かな社会の構築をめざして教育を推進してきました。

このたび、第五次日の出町長期総合計画（基本構想・前期基本計画）が終期を迎え、後期基本計画、また、国の第 4 次教育振興基本計画の策定状況を踏まえ、教育委員会では、新たに、諸計画との整合を図り、日の出町教育委員会の教育目標及び基本方針、主要施策の理念となる「日の出町教育ビジョン 2023」を策定し、今後の日の出町の教育の方向性を示すこととしました。



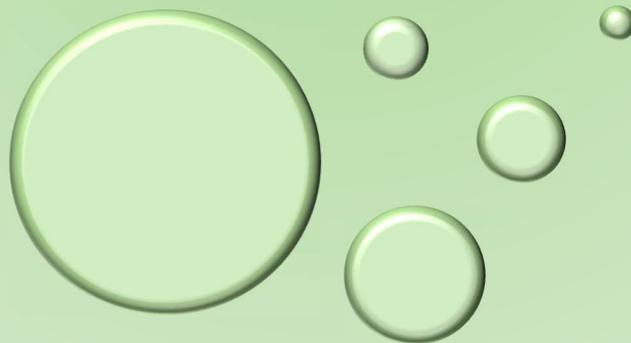
2 教育を取り巻く環境の変化

我が国の教育を取り巻く環境は、急激に大きく変化しています。急速な技術革新、人口減少や高齢化の進展などの国内状況の変化、グローバル化やSDGs達成に向けた世界的な取組の進展といった国際環境の変化等により、人々の価値観や生活が多様化していることに加え、分断や格差が生じ、様々な課題が浮き彫りになっています。

今、私たちは、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大、海外の国や地域における紛争、地球温暖化による気候変動等の影響により、予想しなかった状況に置かれ、多様な他者の存在の尊重や協力することの大切さ、自然環境との調和の重要性について再認識するとともに、持続可能な社会づくりに向けた教育の役割を、改めて問い直す必要があります。しかし、時代や社会がいかに変化しようとも、「人格の完成」「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」という教育の普遍的な使命は変わることはありません。

日の出町においても、デジタルトランスフォーメーションの推進やゼロエミッションなどの新たな課題への対応の他、少子高齢化に伴う、子育て支援施策や高齢者支援施策、自然災害への備えや老朽化するインフラ整備といった様々な課題があります。これらの課題の解決に向けては、教育の力で、町民の主体的社会参画意識、地域社会の形成者としての意識をより高めるとともに、生涯にわたって学び続ける学習者の育成、社会の持続的な発展を生み出す人材の育成が必要です。

日の出町の未来への一歩を踏み出し、日の出町の教育の未来に向けて、町民の誰もが教育の当事者として、共に学び、支え合い、みんなでこれからの日の出町の教育を創造していくことが求められています。



3 策定にあたっての基本的な考え方

私たちには、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が増す VUCA の時代にあっても、立ち止まることなく、これからの教育のあり方を考え、一步一步、着実に、歩みを進めていくことが求められています。

これからの教育にあり方については、人が、自己の良さや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として認め、個人のしあわせとともに他者や社会のしあわせ、多様性の尊重を羅針盤として考えていくことが大切です。

教育行政においても、これからの時代の流れや社会情勢を見据え、様々な変化や障壁、そして時代の要請に柔軟に対応していくことが求められます。

「日の出町教育ビジョン 2023」は、こうした世界の動き、社会的背景のもとに、町民の誰もが教育の当事者として、共に学び、支え合い、みんなで日の出町の教育を創るという視点を軸にして、それを実現する教育行政の取組の方向性を明確にするものとして策定しました。



4 日の出町教育ビジョン 2023 の位置付け

「日の出町教育ビジョン 2023」は、第五次日の出町長期総合計画（基本構想・後期基本計画）」との整合を図った、今後、日の出町が目指す教育の方向性を示す方針として位置付けます。今後、本教育ビジョンに基づき、これまでの「日の出町教育推進計画」や「日の出町教育委員会の権限に属する事務の管理及び進行状況の点検及び評価」等についても順次、「日の出町教育ビジョン 2023」の趣旨や内容を反映させ、施策を展開していきます。



Ⅱ これからを見据えた日の出町の教育

～ 日の出町の教育の目指すところ ～

共に学び、支え合い、みんなで創る日の出町の教育

人は、人それぞれに、夢や希望の実現に向けて、志をもって、よりよく生きたいという願いをもっています。

また、よりよく生きていくために、困難なことにも、あきらめず、多様な他者と目指すところを共有し、自他の存在を認め合い、支え合いながら、歩みを止めず共に乗り越えようとしています。

このようにして、人は、それぞれの人生において、自己と向き合い、人とのかかわりの中での気づきや学びを通して、生きがいややりがいをもって生きていきます。

これからの予測困難な時代においては、人が、学びを通して幸福や生きがいを感じられる社会を、様々な教育の担い手と共に創ることで、一人一人の人生やその人が暮らす地域コミュニティの基盤づくりとなるような教育が求められます。

さらには、苦難を乗り越え、町民と共に歩んできた日の出町のまちづくりの歴史、そして、これからの新たな時代に向けたまちづくりの基本理念である「みんなでつくろう 日の出町！」を踏まえ、今後も、一層、みんなで進める協働の教育づくりを推進していく必要があります。

こうした観点から、「共に学び、支え合い、みんなで創る日の出町の教育」を目指す教育の姿として、町民みんなで日の出町の教育を創ります。



Ⅲ 大切にしていきたい考え方

～ 日の出町の教育振興のための基本方針 ～

◇「かかわり」と「つながり」を大切にした教育

人は、生まれてから、ライフサイクルの各段階で、家族、地域、学校、部活動やサークル活動、習い事、会社などの集団に属し、社会とかかわりながら生きています。日常生活を送るとき、新たなことにチャレンジするとき、困難を乗り越えようとするときなど、人生のあらゆる場面において、協力し助け合い、他者との「かかわり」と「つながり」の中で生きています。「かかわり」と「つながり」を求める経験は、時には自己を鼓舞したり、他者の支えになったりしながら、信頼関係や絆を深めていきます。

共に学び、支え合い、みんなで日の出町の教育を創るに当たっては、顔の見える地域づくりや対話を通して、社会総がかりで教育を創り上げる必要があります。

日の出町の学校教育、社会教育など、町民が生涯にわたって学び続けることができる教育を実現するために、「かかわり」と「つながり」を大切にした教育を進めていきます。

◇相互承認と多様性の尊重に基づく「協働」を大切にした教育

多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じられる地域や社会とするためには、教育を通して、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と「協働」しながら社会的な変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の担い手を育成することが必要になります。

教育を通して、共に学び、支え合うことは、生涯にわたる豊かな学びにつながり、学びを通じた人と人とのつながり・絆の深まりが、地域コミュニティの基盤となります。日の出町が目指す教育を具体的にしていくために、教育の最大の基盤である地域コミュニティにおける様々な主体や機会を生かした「協働」を重視した教育を進めていきます。

◇「学びの循環」を大切にした教育

「学び」とは、目の前の事象や対象に自主・自発的で働きかけ、調べ、議論し、そこから得た自分の考えを発信する自己創造の営みです。

自己創造の過程で得た気付きや学びを、自らの内に閉じ込めず、学びの成果を他者の学びや社会や地域の課題解決につなげることで、更に、自らの学びが深まり、個々の「学び」が「循環」します。

教育に携わるすべての人が、子どもや他者の学びと成長に関わる中で、かかわりつつながりを通した「学び」の成果を地域や次の世代に伝える「学びの循環」を大切にした教育を推進していきます。

IV 新たな日の出町の教育づくりの進め方

～ 取組の方向性 ～

◇子どものしあわせづくりとまちの魅力を生かした学校づくり

一人一人の多様なウェルビーイングを実現するためには、誰一人取り残さず、相互に多様性を尊重し、他者のウェルビーイングを思いやることのできる教育環境を、学校をはじめとする教育機関の日常の教育活動に取り入れ、全ての子どもの可能性を引き出し、自らの夢や希望の実現に向けて、学びに向かうことができるようにしていきます。

また、取組を進めるに当たっては、日の出町の豊かな自然、伝統文化、人と人の絆が醸成された地域コミュニティ等のまちの魅力を教育資源として学習に取り入れ、地域をフィールドとした教育活動を一層推進していきます。

◇家庭・地域・学校のつながりを重視した取組の推進

子どもは家族の愛情に生まれ、学校での多様な活動を通して学び、地域の自然、歴史や文化、人々との触れ合いの中で成長します。

生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を学校教育等において培うために、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解することや、興味・関心を喚起する学びを提供することなどにより、学びを習慣化し、生涯にわたって能動的に学び続けるための態度を涵養することが重要です。

そのために、学校が自らの使命を全うする自己完結型の学校づくりだけでなく、家庭や地域との連携協働型の学校づくりを進め、「地域の中の学校」「地域に開かれた学校」として、次代を担う子どもたちの学びや成長を共に支える取組を推進していきます。

◇安全・安心で質の高い学びを実現する学校施設及び社会教育施設等の環境整備

新たな時代の教育を創るに当たっては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、社会の変化に対応したデジタルやグリーン、ウェルビーイングや共生社会等の視点からの教育を推進する必要があります。

そのために、安全・安心で質の高い学びの実現に向けて、学校施設、社会教育施設、給食調理場等の長寿命化改修をはじめとした計画的な老朽化対策や防災機能の強化を行うとともに、脱炭素化やバリアフリー化、地域との連携・協働の拠点等の観点から環境整備を推進していきます。

◇社会教育、文化・スポーツ活動を通して生涯にわたって、共に学び、支え合う地域づくり

地域において人々の関係を共感的・協調的なものとすることは、社会教育、文化・スポーツ活動を通じて醸成される人々のかかわりとつながりが持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となります。このように「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされます。地域で人と人のかかわりやつながりを作り、協調的な関係を紡ごうと取り組んでいる人たちが生きがいややりがいをもって活躍することができる風土を醸成していきます。

V 教育行政の今後の展開

◇一人一人が重要な教育の担い手として、社会総がかりの教育風土づくり

子どもの成長と学びには、家庭も地域も学校も、その役割に応じた教育責任を負い、それぞれが教育の重要な担い手・当事者として、支え合う必要があります。誰もが教育ビジョン 2023 を共有し、共に取り組むことで、目標の実現を目指します。

◇教育の展開を通じた協働の広がり地域コミュニティの一体感の醸成

日の出町の目指す教育を具体化していくため、教育の最大の基盤ともいえる地域コミュニティの形成に努めます。またそのために、行政をはじめ、学校や保護者、町会・自治会、大学、企業・商店街、NPO・ボランティア団体など、様々な主体や場を活かした協働の教育づくりを目指します。

◇行政の横断的なつながりを重視した施策展開

子どもの成長や人々の学びには、本来、社会を構成する様々な分野・要素がかかわっています。今後の教育施策は、これまでも増して町民生活や保健、福祉、環境、まちづくりなどの分野とのつながりを重視し、関連部局との横断的な施策の展開に努めていきます。



【用語解説】

SDGs（エスディージーズ）

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語。

2015年にニューヨークの国際連合本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において採択された、環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題の解決に向けた計画や目標。

デジタルトランスフォーメーション（DX）

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもちに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

ゼロエミッション

ゼロエミッションとは、1994年に国際連合大学が提唱した「廃棄物のエミッション(排出)をゼロにする」という考え方。具体的には、「ある産業から出た廃棄物を別の産業が再利用することで、廃棄物の埋め立て処分量ゼロを目指す」というもの。

VUCA

Volatility(変動性)Uncertainty(不確実性)Complexity(複雑性)Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った造語。社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のこと。

ライフサイクル

人生において、人の誕生から生涯を終えるまでの過程での様々な節目での社会的・肉体的・精神的な様々な変化。

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。

社会の変化に対応したデジタルやグリーン

技術革新の進展により、高度化したデジタル技術を活用することで、業務の効率化や新たなサービスやビジネスモデルを実現すること。また、経済活動を環境に配慮したものとして、経済活動により自然資源や生態系などの地球環境が損なわれないようにすること。

共生社会

さまざまな人々が、すべて分け隔てのなく暮らしていくことのできる社会。障害のある人もない人も、支える人と支えを受ける人に分かれることなく、支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会のこと。

バリアフリー化

高齢者・障害者等が生活していく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去する考え方。



日の出町教育委員会